

伊敷小学校での「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成20年5月22日（木）19：00～20：00
場所：伊敷小学校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
		<p>③ 甲突川リバーフロント開発として、岩崎橋からひまわり橋の間の堤防上の河川道路を市道として拡幅整備してほしい。</p>	<p>③ これまでの市の取り組みとしては、甲突川沿いに整備している環境未来館などがリバーフロント開発のひとつとして挙げられると思います。 甲突川自体の管理・整備は県の管轄となりますので、ご意見については県にお伝えいたします。</p>	建設局	<p>③ 甲突川の維持管理は県が行っており、当概箇所はすでに河川改修を終えております。また、管理道路につきましても、県が管理しており、市として整備を行う予定はありませんが、ご意見については、県にお伝えいたします。</p>
7	喜入生見町 男性	<p>合併前から旧喜入町は1町1中学校で、中学生はJR通学をしている。旧町時代、中学校を統合する際、通学定期代補助をずっと続けるという約束があったと聞いているが、旧町時代から続いた通学定期代補助がこの春から段階的に廃止されるとのことだった。 また瀬々串から喜入、前之浜から喜入の間の国道は数キロにわたり歩道もなく、JRを使わず生徒が徒歩で通うのは危険である。 通学定期代を負担しなければ中学校に通えないというのでは、憲法や教育基本法が保障する義務教育の無償や、教育の機会均等に反するのではないか。</p>	<p>通学補助については旧鹿兒島市内でもキロ数に応じて制度化されていますが、合併後は新市域全体を同じ基準で統一する必要があることから見直しが必要とされているところです。 歩道の整備をはじめとする通学環境の整備もあわせて図ってまいりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>	建設局 教育委員会	<p>喜入地区については、合併後、特例措置として、中学校4キロ以上を補助対象とし、公共交通機関のほか自転車、徒歩での通学者も対象としてきましたが、包括外部監査や行政評価において、全市的に同じ基準で統一することが望ましいとの指摘があったことから、20年度より、段階的に特例措置を廃止することとしたところであります。 遠距離通学補助制度は、国が定める通学距離の基準を超えて通学する児童生徒の交通費の補助を行い、保護者の経済的負担の軽減を図る制度ですのでご理解ください。 国道226号については、現在、国において産業道路南入口交差点から平川交差点付近までを「平川道路」として整備が進められており、平川道路以南についても、県市長会等を通じて国に四車線拡幅改良の早期事業化などを要望しているところです。 今後も、ご指摘のありました国道226号の歩道整備については、道路管理者である国へお伝えしてまいります。</p>

伊敷小学校での「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成20年5月22日（木）19：00～20：00
場所：伊敷小学校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
8	緑ヶ丘町 女性	① 人工島に駐車場も含めて花を植えたり、噴水を設けるなどすれば、九州でも随一の観光名所になるのではないかと。	① 人工島「マリンポートかごしま」は国や市も協力し、県が整備した本市にとっても大きな観光資源です。貴重な観光スポットであり、ご意見は県に伝えてまいりたいと思います。	経済局 建設局	① 「マリンポートかごしま（人工島）」は県により整備が進められ、平成19年9月に1期1工区が大型観光船の接岸できる岸壁と県民や観光客が錦江湾や桜島の雄大な景観を満喫し、憩い、散策できる緑地空間として供用開始されております。現在は、2工区の埋立が平成26年12月の完成を目標に進められております。 「マリンポートかごしま」は本市にとっても貴重な観光資源でありますので、ご意見は県へお伝えいたします。 現在、本市においては、県、鹿児島商工会議所と共同で鹿児島海外観光客受入協議会を設置し、観光客船の受入等を推進しているところであり、今後とも、多くの市民や観光客の方々にご見学いただくために、関係機関と連携し情報発信などに努めていきたいと考えております。
		② 市長とふれあいトークは事前運動ではないのか。市長の政治姿勢・ポリシーなどを聞かせてほしい。	② 私は市長に就任以来、市民との対話、パートナーシップを大切にす 「市民が主役の鹿児島市の実現」を目指してまいりました。「市長とふれあいトーク」はこれまでの4年間に今回を含め計34回開催しています。私の政治姿勢としては、市民の皆さんの声を直接うかがい、市民とともにまちづくりを進めることと考えています。	企画部 市民局	② 私は市長に就任以来、住民自治の原則に立ち、市民との対話、パートナーシップを大切にす 「市民が主役の鹿児島市の実現」を基本理念に、本市の限りない発展と市民福祉の向上のため日々全力を傾けているところで
		③ 高齢者向けの施設、老人ホームなどは不足していると思う。この伊敷地域にもさらにもう2つほどそのような施設を整備してもらえないだろうか。	③ 高齢者へのケアについては、民間でも努力をされており、必ずしも行政がすべて整備できるものでもありませんので、施設の整備など民間の活動に対する経済的支援も重要な方策であると考えています。	健康福祉局	③ 本市における特別養護老人ホーム等については、鹿児島市高齢者保健福祉・介護保険事業計画に基づき、整備を進めております。現在、平成21年度から23年度を計画期間とする次期計画の策定を進めているところであり、同計画の策定の中で、民間による整備を検討することとしております。 なお、平成20年度に、小規模多機能型居宅介護の事業所を伊敷地域に開設できるよう事業者を公募しているところです。

伊敷小学校での「市長とふれあいたーク」発言に対する処理方針

日時：平成20年5月22日（木）19：00～20：00
場所：伊敷小学校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
9	伊敷町 男性	<p>下田町七窪の水源地は90年の歴史があり、日本の名水だと思ふ。かつては水源地のトンネル入口に蛇口があり水が飲めたのだが、私たち伊敷町の田入道・長井田町内会はこの水源地に隣接していながら、この水を飲んでいるのではなく、河頭の浄水場からの水道水を飲んでいる。</p> <p>地元住民の飲料水として七窪水源地のまろやかな水を飲めるようにしていただけないだろうか。</p>	<p>ご提言のとおり、七窪水源地の水は鹿児島の名水だと思います。現在は地元住民のみなさんの飲料水としては河頭浄水場の水を利用していますが、地元の方々が近くの水源の水を飲みたいというご意見があったということは水道局にお伝えしたいと思います。</p>	水道局	<p>水道局ではこれまで、水源地・浄水場の位置・能力及び地形等の地理的条件、水需要の実態等の社会的条件などを考慮し、合理的かつ経済的な水運用ができるよう配水区域を設定しておりますので、必ずしも近くの水源地から地元へ配水されるとは限りませんので、ご理解ください。</p> <p>なお、伊敷地域は主として河頭浄水場系の水を配水しておりますが、田入道地区は七窪水源地系、長井田地区は七窪水源地に隣接する金水水源地からの水を配水しております。</p>
10	下伊敷1丁目 男性	<p>① 内陸を縦貫する道路としては小山田谷山線が一応あるが、松元-春山間の整備が遅れている。また溝辺、蒲生、小山田の間もつながっていない。</p> <p>市街地を通らない内陸部の環状道路は市の発展のためにも必要であると考え。この道路は、南北道路や東西道路よりも重要性は高い、と思われる。市から強く県に実現を要望してほしい。</p>	<p>① 県道「鹿児島蒲生線」の整備については、これまでも県に要望をしております。また春山地域の道路整備についても地域のみなさん、関連の団体等とともに県に要望しているところです。しかしながら報道されているように県財政の厳しい状況もあります。今後とも県には要望を続けてまいります。</p>	建設局	<p>① 県道伊集院蒲生溝辺線につきましては、県道小山田谷山線と相まって鹿児島市と鹿児島空港を結ぶ外環状道路として位置づけられており、本市域内に関しましては、平成21年度を目途に整備が進められているところであります。現在も沿線の市町とともに、県への要望を続けていくところですが、今後とも引き続き県に対して整備促進を要望してまいります。</p>

伊敷小学校での「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成20年5月22日（木）19：00～20：00
場所：伊敷小学校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
		<p>② 新聞報道などで道州制の導入へ向けた動きが報じられている。九州では福岡・佐賀・大分・熊本は成長率も高く、雇用状況も良いとされる一方で、長崎・鹿児島はどちらも不振である。北部九州には福岡・北九州という政令指定都市があり、今、熊本市が合併により人口70万を達成し、政令市を目指そうとしている。</p> <p>企業誘致はこれからの5年間で正念場といわれており、南九州はここ伊敷地域を見てもわかるように過疎化に歯止めがかからず、若者の働く場が無い。雇用の場を確保するためにも鹿児島が南九州の中で政令市を目指すという政策転換をお願いしたい。</p>	<p>② 九州は道州制の論議では他の地域に対して一歩リードしていると考えています。その中で、3年後に迫った新幹線全線開業の影響もあわせて都市形態のあり方や企業誘致への取り組みをどう考えるかは喫緊の課題です。</p> <p>政令市もその課題に対するひとつの方策であると考えますが、政令市を目指すには70万人の人口確保が必要とされ、現在鹿児島市の人口はおよそ60万5千人であり、まず隣接地域との合併が前提となります。</p> <p>私は道州制の下での都市制度がどういものになるかはっきりしない現状では、政令市を目指すよりも九州の他の中核市と連携を図りながら政令市と同じような権限・財源を中核市に与えるよう国に要望していくことが重要であると考えています。</p>	<p>企画部 経済局</p>	<p>② 政令指定都市に移行すると、県が処理する事務の全部または一部を直接処理することができるほか、財政面においても県並みの権限を得られることとなりますが、移行のためには70万人の人口確保が必要とされ、そのための環境整備が必要となりますが、現段階でそれを充たすことは困難であると考えております。</p> <p>一方で、10年後を目途とする道州制論議も始まっており、道州制に移行すると、中核市など一定規模を充たす基礎自治体に対しては現在の政令指定都市並みの権限が移譲されることも想定されます。</p> <p>このようなことから、現実的な対応としては、現在の第二期地方分権改革の中で、より強固で幅広い権限や財源が中核市へ移譲されるよう、引き続き、中核市市長会等を通じて要請していくことが重要であると考えております。</p> <p>企業誘致を行ううえでは、地理的なハンディを克服する方策や企業ニーズに合致した工場適地の確保、助成制度の充実といったようなものが、重要な要素であると考えております。</p> <p>今後も、県と連携を図りながら、平成19年6月に施行された企業立地促進法に基づく支援措置等を活用するなどし、情報関連産業や製造業の誘致の推進に引き続き努力してまいりたいと考えております。</p>
		<p>③ 中心市街地活性化基本計画が策定されているが、天文館などの中心市街のみを対象にするのではなく、伊敷地域など市内の各地域のバランスとれた鹿児島市全域の発展を目指す計画を策定してほしい。</p>	<p>③ 中心市街地活性化基本計画は、全市の発展をめざして、まず天文館地域をひとつの対象として実施するものです。</p> <p>天文館という中心のみが発展すればよい、ということではなく、市内各地域を発展させる最初の一歩として天文館地域を挙げているということです。ここから伊敷地域、谷山地域、吉野地域など各地域の核となる中心を活性化させる事業に取り組みを拡げることによって鹿児島市の発展が図られ、九州内での都市間競争にも立ち向かっていけるのではないかと考えています。</p>	<p>経済局</p>	<p>③ 中心市街地活性化基本計画は、平成19年12月25日に全国で24都市目、九州で5都市目の認定を受けております。</p> <p>基本計画は、「海と陸を結ぶ南の”歓・交”拠点都市の創造」をコンセプトに本市のまちの顔とも言うべき中心市街地の回遊性の向上と、にぎわいあふれるまちづくりを行政と民間が一体となって推進するものです。</p> <p>今後、基本計画に盛り込まれた63事業を着実に推進することにより、中心市街地の活性化が、市全体のにぎわいの創出と活力の向上につながるよう、市総合計画や都市マスタープラン等の計画とも調和を図りながら、市民・事業者・関係行政機関が一体となった取組を強力に進めていきたいと考えています。</p>

伊敷小学校での「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成20年5月22日（木）19：00～20：00
場所：伊敷小学校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
11	田上3丁目 男性	テレビドラマの脚本やエッセイなどで知られる作家の向田邦子さんは、子どもの頃、山下小学校に在学しており、鹿児島市を第二の故郷と呼び、ご家族もその遺品をかごしま近代文学館に寄贈している。鹿児島での居住地を「向田公園」として碑文などを作って整備してはどうか。鹿児島市の文化ゾーンも広がると思う。	向田邦子さんが山下小に在籍し、鹿児島をこよなく愛していたことを後世の人々に伝えていくのは重要なことと考えます。それが公園整備という形につながるか、居住地の現状の調査を含め所管の教育委員会にご意見を伝えてまいりたいと思います。	教育委員会 建設局	かごしま近代文学館では、現在向田邦子さんに関する資料を9,000点以上収蔵しており、常設展示室やライブラリーで常時公開しております。 また平成20年度は、収藏品展として「向田邦子と鹿児島」（仮称）の開催や、文学講座として向田邦子作品朗読会を予定しており、今後とも鹿児島にゆかりのある作家である向田邦子さんの作品等を、広く紹介していきたいと考えております。 なお、ご要望の向田邦子居宅跡地を調査し、検討しましたが、同地の地形や敷地面積などから、公園として整備することは難しいと考えております。
12	下伊敷3丁目 男性	鹿児島市街の眼前に広がる海の名称をイメージの良い「錦江湾」に統一変更する方法はないのだろうか。「鹿児島湾」よりも観光面にはプラスになると思うのでお願いしたい。	観光など多くのお客さんが紹介するときは「錦江湾」を使うことのほうが多いのではないかと思います。地図表記などされる正式名称である「鹿児島湾」は国が定めた名称ですので、ご意見があったことは国・県などに伝えてまいりたいと思います。	経済局 建設局	現在、観光分野においては、鹿児島湾、錦江湾の両方の名称を用い、パンフレットを発行するなどしておりますが、今後も利用者に分かりやすく情報発信できるよう努めてまいります。 なお、「鹿児島湾」については、国が定めた名称ですので、ご意見がありましたことについては、国へお伝えしたいと考えております。